

バイオマス産業都市選定委員会の概要

1. 日 時 平成 26 年 2 月 7 日 午後

2. 場 所 農林水産省 会議室

3. 出席者

【委員】 金谷 年展 東京工業大学 リューション研究機構 特任教授
竹ヶ原 啓介 (株)日本政策投資銀行 環境・CSR部長
(座長) 塚本 修 東京理科大学 特命教授
中村 一夫 (財)京都高度技術研究所 バイオマスエネルギー研究部長
野村 充伸 地方共同法人日本下水道事業団 理事
横山 伸也 鳥取環境大学環境学部 教授

【関係府省】 内閣府、総務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省

4. 概 要

【要 旨】

- ・ 7 府省合同でバイオマス産業都市選定委員会を開催し、4 つの視点（①先導性、②実現可能性、③地域波及効果、④実施体制）を中心に、第二次募集で応募のあった 8 地域からヒアリング・審査を行い、8 地域（北海道釧路市、北海道興部町、宮城県南三陸町、静岡県浜松市、三重県津市、島根県奥出雲町、岡山県真庭市、岡山県西粟倉村）全てを選定委員会の推薦案とすることを決定した。
- ・ 選定委員会において出された意見等は、選定結果と併せて公表し、推薦案として選定された地域の事業化プロジェクトの具体化等の参考として活用。

【主な意見等】

（1）北海道釧路市

- ・ 東北海道の中核・拠点都市の特徴を活かし、豊富かつ多様なバイオマスを活用する総合的なまちづくりのモデルとなり得る。
- ・ バイオガス事業について、食品工場のボイラー燃料用等に直接ガスを供給する取組は先導性がある。今後、コストの一層の低減等の課題を克服し持続性のある取組に期待。
- ・ バイオマスの利活用による農業ブランドのパワーアップを図り、新しいビジネスモデルを生み出す取組に期待。

（2）北海道興部町

- ・ 酪農と漁業の町の地域資源を適切に把握し、過去の実証結果を踏まえるなど地に足の着いた堅実な構想であり、類似地域にとってモデルとなり得る。
- ・ バイオマスプラントと食品加工を組み合わせた観光、教育、交流促進等の 6 次産業化の展開に期待。

(3) 宮城県南三陸町

- ・ 東日本大震災の教訓、復興、インフラ更新など多面的な検討により組み立てられた構想であり、被災地域はもとより、全国的なモデルとなり得る。
- ・ 地域の林地残材等を活用した木質バイオマス事業でペレット製造を行い、災害時にも自己完結した地域循環型エネルギーを供給できる体制整備に期待するとともに、廃食用油からBDFを製造して車両に利用する等、さらなる災害に強いまちづくりの強化に期待。
- ・ 地域に新たな産業を生み出すような展開に期待。

(4) 静岡県浜松市

- ・ 既に一定レベルでバイオマス資源を活用している現実を踏まえ、都市と中山間地の課題をあわせ持つ地域の特徴を活かした汎用性のある構想となっており全国のモデルとなり得る。
- ・ 行政課題を民間活力によるエネルギー活用により解消する取組は全国的なモデルとなり得る。

(5) 三重県津市

- ・ 現状の利用状態と矛盾のない形で未利用資源の活用にポイントを絞った合理的なアプローチは他の地域のモデルとなり得る。
- ・ 木質バイオマス発電が核となり地域内の間伐材や剪定枝等の資源がきちんと循環することが重要であり、当面は輸入バイオマスに頼るにせよ、将来的な地域材の利用活用の増大に向けて、行政と民間が一体となった取組が必要。
- ・ 市が主体となって各プロジェクトを融合し、地域の特色を活かしたバイオマス産業都市を構築していくことに期待。

(6) 島根県奥出雲町

- ・ 適正伐採とそれを可能にする出口確保の問題に焦点を絞り検討された分、具体性を持っており、森林資源に恵まれた地域の具体的なモデルとなり得る方向性が示されている。今後、既に取組を進めている木質以外のバイオマス利活用と融合させた産業都市の構築に期待。
- ・ 木質バイオマスを炭化して製鉄に利用する取組は先導性があるが、事業化に向け、技術面での実現可能性や採算性に対してさらなる詳細検討が必要。

(7) 岡山県真庭市

- ・ 長い検討の蓄積と実践に裏打ちされた総合的なバイオマス利活用計画であり、全国のモデルにふさわしい構想内容。
- ・ 豊富なバイオマス資源の多様な活用を通じたクラスターの形成が強く意識されており、具体的に検討された地域資源の活用や産業振興の内容に照らして大きな地域波及効果が期待できる。
- ・ 真庭バイオマス産業都市推進協議会を最高意思決定機関として設置し、推進役を

担う推進本部と各プロジェクト、外部専門家が有機的に連携する官民連携の仕組みが構築されている。

(8) 岡山県西粟倉村

- ・ 非常に長い取組の成果としての「百年の森林構想」に基づき、社会的企業等の多様な主体の関与により、ソフトを中心とした先駆的な取組は小規模中山間地域のモデルとなり得る。
- ・ 新たな観点から木質バイオマスを利用する取組であり、今後、模範となるような事業展開に期待。

— 以 上 —